

Annual Report 2020

PHD

事業報告 **2020**
公益財団法人
PHD協会 2020.4 - 2021.3



事業報告 2020

公益財団法人 PHD協会 2020.4 - 2021.3



2020年度
PHD協会
事業報告

ネパール「ダリット」生活支援 P.2-5
ミャンマー・バタール緊急支援 P.6
在日外国人生活支援 P.7
広報・啓発 P.8-12
組織運営 P.13-15

Annual Report 2020

理事長挨拶

理事長 水野 雄二



いつもPHD協会をご支援くださり感謝申し上げます。2020年度は新型コロナウイルスのパンデミックで多くの人々が苦しみ、悲しみ、嘆いた一年でした。PHD協会もミャンマー、ネパール、インドネシアからの研修生を迎えることができない歴史的な一年を過ごしました。しかし、コロナ禍で困難に直面する在日外国人の支援に焦点を当てた事業に取り組むことができたことは幸いでした。2021年度もコロナ終息の目途は立たず、研修生招聘の再開は見通せません。また、クーデターによるミャンマー情勢が憂慮され、現地の元研修生の動向も懸念されます。一日も早い平和の到来を祈ると共に、私たちにできる「平和への働き」を強めていきます。

今年、PHD協会は創立40周年を迎えます。今までのご支援に感謝すると共に、これからの歩みにも更なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

事務局報告

主任主事 坂西 卓郎



2020年度はPHD協会の歴史で初めてとなる研修生不在の一年でした。コロナ禍に見舞われ、研修生の招聘を断念した春先は、各種助成金の返金作業などをしながら、大きな不安に駆られました。しかしながら、会員の皆様からの温かなご支援のおかげで、活動を継続することができています。コロナ禍の中ですが、いやだからこそ、人の温かさに触れ、感動した一年となりました。この場をお借りして皆様に心より感謝申し上げます。

活動面では、10月1日に「国際協力・交流シェアハウス みんなのいえ」をオープンすることができました。難民申請者の方やコロナ禍で困窮する外国人の方のための一時居住スペースです。岩村先生が提唱された「共に生きる」というメッセージを具現化する場になればと願っています。このように社会的なニーズに対応した新しい活動を始動できたのも会員、支援者の皆様のおかげです。他方、2月1日にはミャンマーで軍事クーデターが起こってしまいました。当会の元研修生達も苦悩しながら聞っています。私たちができることは限られていますが、研修生達に寄り添うことを続けていきたいと思っています。引き続き、ご支援、ご参加よろしくお願い申し上げます。

PHD SAVE NEPAL

ネパール「ダリット」コミュニティ生活支援プロジェクト

2020 - 2021活動概要

2020年度、ネパールの元研修生が活動するカブレパンチョーク郡では新型コロナウイルス感染拡大により、職を失い、生活困窮に陥る人が急増しました。地域住民たちをこの窮状から救い、彼らの健康と命を守るために、現地側と協働して3種類のプロジェクトを段階的に実施しました。

【コロナ禍の地域課題】

1. 生活困窮による人々の食糧難。仕事がなく、収入もないため、日々の食べ物が何もない。田畑を持っていない人も多く、農作物の収穫もできない。
2. 村の人たちの新型コロナウイルスに対する知識が不足していること。この感染症の特徴や予防法について知らないために、感染のリスクが極めて大きい。



-第1弾- 元研修生活動地域への食糧配給活動

※このプロジェクトの一部は一般財団法人 泉北のまちと暮らしを考える財団の助成金を受託して実施しました。

【プロジェクト目的】

コロナ禍で困窮下にあるダリット地域住民に対して、緊急的に食糧を提供し、彼らの日々の生活を守る。

【実施者】

- ・元研修生：サビナさん（2018年度）、スシラさん（2019年度）
- ・古屋祐輔さん（ネパール社会活動家）
- ・PHD協会

【対象地域】

カブレパンチョーク郡：
ジトゥルボカリ村、ラトマタ村

【対象者】

当地域における

全120世帯/計520人



【支援内容（一世帯あたり）】

食糧配給	1セット /2,000円
米 30kg、レンズ豆 2kg、食用油 1ℓ、塩 2パック、石鹸 2個	
	308,000 ネパールルピー (約 275,000 円 / 日本円換算時)



【実施スケジュール】

- 5/22-23 元研修生のサビナさん、スシラさんより村の困窮状態訴え
- 5/25 PHD事務局にて本件に関して協議
数日間にかけて現地側からのヒアリング
- 5/29 古屋祐輔さんの協働と寄付
- 6/3 PHD事務局での本会議、ネパール支援詳細について協議
現地側からのヒアリング（支援情報の詳細）
- 6/15-17 ネパールへの海外送金→着金
- 6/24 支援世帯リストの作成、運搬調整
近郊地域での食糧買い出し
- 6/26-27 食糧配給実施



-第2弾- 「ダリット」への食糧配給及び感染症拡大防止のための啓発活動

※このプロジェクトは公益財団法人庭野平和財団の助成金を受託して実施しました。

【プロジェクト目的】

- 1) 食糧配給：新型コロナウイルス感染拡大の影響で飢餓の危機に直面する「ダリット」や困窮している人々の健康と命を守る。
- 2) 啓発活動：貧困世帯に対して、手洗いやマスク着用等の感染予防対策について説明を行い、村の人たちが予防のための正しい知識を身に付ける。

【実施者】

- ・元研修生
サビナさん(2018年度)、スシラさん(2019年度)、ウルミラさん(2010年度)、アシカさん(次期研修生)
- ・SSS(サマ・セワ・サムハ：ネパール現地カウンターパート NGO 団体)
- ・PHD 協会

【対象地域】

カブレパランチョーク郡：ジトゥルボカリ村、ラトマタ村、バハテゴン村、パウワ村

【対象者】

当地域における

全119世帯/計547人



(SSS 事業に参画している世帯のうち、ひとり親世帯・多子世帯・土地なし世帯・高齢者世帯といった最貧困層)



【支援内容】



食糧配給	1セット/世帯
	5人以内の家族：米 30kg、レンズ豆 2kg、食用油 2ℓ、塩 2パック、消毒液 1 ボトル、タオル 1 枚、石鹼 1 個、バケツ 1 つ
	6人以上の家族：米 35kg、レンズ豆 3kg、食用油 3ℓ、塩 3パック、消毒液 1 ボトル、タオル 1 枚、石鹼 2 個、バケツ 1 つ
350,987 ネパールルピー約 317,500 円 / 日本円換算時)	

感染症拡大防止のための啓発活動	
対象者：各女性グループのメンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生指導（オリエンテーション） ・新型コロナウイルスの症状と危険性 ・手洗いや消毒、マスク着用の習慣化
41,895 ネパールルピー (約 37,890 円 / 日本円換算時)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的距離（ソーシャルディスタンス） ・感染時の対処



【実施スケジュール】

グループ名	感染防止啓発活動①	衛生用品食糧配給	感染防止啓発活動②	フォローアップトレーニング	実施場所
ハラバラ	7/19	7/22	7/27	10/4	ジトゥルボカリ村 事務所
ジョディプティ	7/15	7/20	7/30	10/5	バハテゴン村 事務所
ジョルワ	7/18	7/22	7/26	10/4	ジトゥルボカリ村 事務所
ラリグラス	7/14	7/20	7/29	10/5	女性メンバーの家

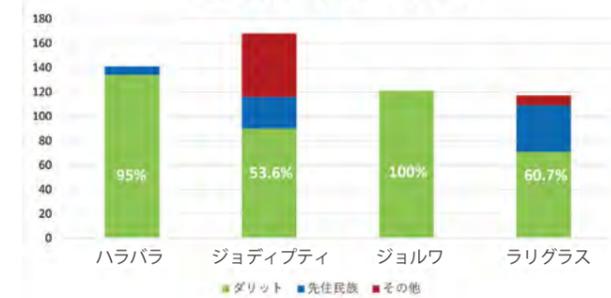
【村とグループのメンバー数、世帯数、総人口】

No.	グループ名	地域	グループメンバー数	世帯数	総人数
1	ハラバラ 女性グループ (サビナさん、スシラさん所属)	ジトゥルボカリ村	34	32	141
2	ジョディプティ 女性グループ	バハテゴン村	32	32	168
3	ジョルワ 女性グループ	ラトマタ村	28	27	121
4	ラリグラス 女性グループ	パウワ村	28	28	117
合計			122	119	547

全体に占めるダリットの割合



各女性グループのカースト内訳



【村のカーストとジェンダー分析】

No.	グループ名	カースト	人数			
			成人男性	成人女性	10才以下の子ども	
				男	女	
1	ハラバラ (ジトゥルボカリ村)	ダリット	66	68	11	10
		先住民	4	3	0	1
		その他	0	0	0	0
		計	70	71	11	11
2	ジョディプティ (バハテゴン村)	ダリット	42	48	5	7
		先住民	16	10	0	2
		その他	29	23	1	4
		計	86	81	6	13
3	ジョルワ (ラトマタ村)	ダリット	61	60	11	12
		先住民	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0
		計	61	60	11	12
4	ラリグラス (パウワ村)	ダリット	37	34	3	5
		先住民	20	18	0	1
		その他	5	3	0	1
		計	62	55	3	7
合計		ダリット	206	210	30	34
		先住民	40	31	0	4
		その他	34	26	1	5
		計	280	267	31	43

-第3弾- 「ダリット」への公衆トイレと共用水道設置、活用による感染拡大防止活動

※このプロジェクトは日本労働組合総連合会の助成金を受託して実施しました。

【プロジェクト目的】

新型コロナウイルス感染を防ぎ、地域住民の衛生状態を改善するために、彼らが利用できる公共トイレと水道設備を提供する。

【実施者】

- ・元研修生: サビナさん (2018年度)、スシラさん (2019年度)、アシカさん (次期研修生)
- ・SSS (サマ・セワ・サムハ: ネパール現地カウンターパート NGO 団体)
- ・PHD 協会

【対象地域】

カブレパランチョーク郡: ジトゥルポカリ村、ラトマタ村、バハテゴン村

対象外- パウワ村 (トイレ/水道の設備あり)

【支援内容】

地域住民のためのトイレと手洗い場、公衆水道の設置

- トイレと公共水道設備: ジトゥルポカリ村
- 手洗い場の設置: バハテゴン村、ラトマタ村

総額: 324,665 ネパールルピー
(約 302,424 円 / 日本円換算時)

【受益者の声】

「今までは会議中にトイレに行きたい際に、近所の家の住民に尋ねなければならず、文句も言われた。今はトイレがすぐ近くにあり、気兼ねなく行くことができる。また、会議に入る前には必ず手を洗うようになった。」

2021/3/2 設置工事の開始

(トイレ建物、公共水道、1000ℓタンク、手洗い場)

実施者による経過フォローアップ



2021/4/25 作業完了



地域の女性グループメンバー

PHD With MYANMAR

※このプロジェクトは公益財団法人かめり財団の助成金を受託して実施しました。

ミャンマーのスラム・パターにおける緊急食糧支援及びCOVID-19感染拡大防止のための啓発活動

ミャンマーにあるスラム・パターは、PHD協会の次期研修生トゥートゥーウェイさんが先生として活動する地域です。多くの地域住民は、コロナ禍の1年を経て、これまでの日雇い仕事等がなくなり、現金収入が滞ったことで飢餓のリスクに見舞われました。スラムの厳しい実情、そして、それを打開したいというトゥートゥーウェイさんの想いを受けて、このプロジェクトは計画・実施されました。

【プロジェクト目的】

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、飢餓の危機に直面するスラム住民に対して緊急支援を行う。

【実施者】

- ・PHD ミャンマー: トゥートゥーウェイさん (次期研修生)、モーママさん (2013年度)、サンティダさん (2015年度)、マーチョさん (2016年度)
- ・DIC (ドロップインセンター: スラムパターにある子ども支援施設)
- ・PHD 協会

【対象地域】

ミャンマー / マンダレー地方域 / スラム・パター

【対象者】

全120世帯/計840人

配給活動の対象者は、パター中心部に住む世帯のうち、以下の要件で選定した困窮世帯

- ・コロナ禍により失業
- ・土地を所有していない (家賃負担がある)
- ・7人以上の世帯 (多子世帯)
- ・貯金がない世帯
- ・日雇い労働世帯 (定職無し世帯)
- ・児童労働に従事している子ども (7~18歳) のいる世帯



【支援内容 (1世帯当たり)】

食糧配給: 米 25kg、油 2kg、豆 3kg、塩 1kg、マスク 1箱、かぜ薬 1パック (10錠)

総額: 5,000,770 チャット (約 381,000 円 / 日本円換算時)

【実施スケジュール】

- 11月 現地側との事業企画・調整とスラムの生活状況確認、食糧買い出し準備
- 12月 食糧・衛生用品購入と配給作業開始
- 1月 現地状況フォローアップ、事業報告
- 5月



【トゥートゥーウェイさんのメッセージ】

「PHDの皆さん、ミャンマーが苦しくて大変な時に助けていただき、本当にありがとうございました。皆さんから、優しさ、愛、思いやりをもらって、私とスラムの人々、子どもたちはとても嬉しかったです。心の中でいつもこのことを思い出します。私の感謝の気持ちが皆さんに届きますように。」

※2021年2月1日に勃発した軍事クーデターの影響により、新型コロナウイルス感染予防のための啓発活動を実施することができませんでした。

アウトリーチ型在日外国人生活支援事業

※この事業は公益財団法人神戸国際協力交流センター（KICC）の助成金を受託して実施しました。

【活動内容】

アウトリーチ活動

在日外国人が日常的に利用する場に出向き、彼らとかわりを持つ。その中で情報や支援が届いていない人々へのヒアリング及び相談対応を重ねながら、生活状況の把握を行う。

生活支援活動

当事者の抱える課題やニーズに合わせた支援を提供する。

- ・食料（米、肉、野菜、豆類、調味料等）の買い出し同行と配給、料理指導
- ・衛生用品（マスク、消毒液）、その他日用品の配給
- ・居住支援（当会事務所を利用した住居スペースの提供）
- ・その他、進学、就労、行政手続き、在留資格等のサポート、日本語教室等

【支援実績】

アウトリーチ訪問先	62件	
生活相談	30件（計51人）	
食料・日用品配給	中国	16人
	ベトナム	2人
	ミャンマー	40人
	バングラデシュ	1人
	インドネシア	3人
	ネパール	2人

【当事業を通して見聞きした外国人が抱える課題】

- ・直近の食べ物や住まいに困る。入国管理局での不当な扱い。コロナの影響により留学後に帰国できない。
- ・仕事先でのいじめや差別、出身国によって受ける扱いが異なる。給与の未払い、減額。
- ・アルバイト先での解雇、雇止め、就労時間減少。就業時間が夜間のみ。安定した仕事を得られない。
- ・母国で借金を抱えて来日、返済に迫られる・頼れる日本人の知人や友人がいない。
- ・高額な家賃、部屋の狭さによるコロナ禍の集団生活と感染リスク。仕事を見つけることができない。

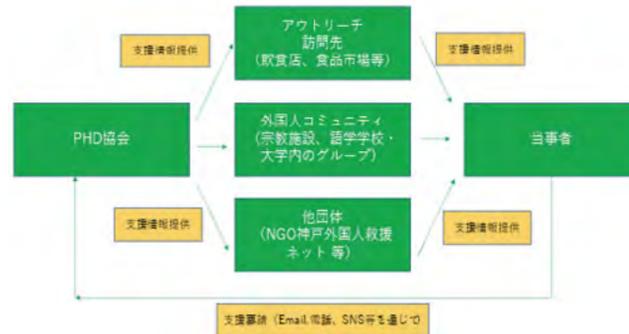
居住支援

10月1日にPHD協会事務所2-3階を活用して、国際協力・交流シェアハウス「みんなのいえ」を始動しました。主にコロナ禍で困窮する外国人の方や難民申請者の方のための一時居住スペースです。

	滞在期間	出身国
居住者内訳	10月1日～3月1日	ベトナム1人（男性）
	10月21日～10月28日	ベトナム1人（男性）
	2021年1月15日～6月1日	バングラデシュ1人（男性）
	2021年3月11日～3月22日	ネパール2人（女性、男性）
	合計	5人



日本語を勉強する居住者



PHD協会事務所にて、留学生の相談に対応

【実施スケジュール】

- 5月 アウトリーチ実施、訪問先でのヒアリング、困窮者への相談対応と関係性構築
- 10月 当事者の生活課題とニーズに応じた支援の実施
- 1月 活動実績と事例の整理、報告書作成
- 2月

広報・啓発



講演・交流会

2020年度は主にインターネットでのビデオ通話を利用し、講義・講演会を行いました。また、元研修生たち（インドネシア・ネパール）と繋ぎ、現地からの声を届けることができました。

＜講演・交流先＞

- 京都府 / 京都淑徳高等学校
- 奈良県 / 西大和学園高等学校
- 大阪府 / コープ島本
- 兵庫県 / 神戸親和女子大学、神戸学院大学、神港橋高校、関西学院高等部、篠山ロータリークラブ、神戸情報大学院、小野高等学校、加古川北高等学校、北須磨高等学校、神戸須磨ロータリーアクト、JICA 関西、こうべ市民活動協議会、多言語センター FACIL
- その他 / HAPIC、Earth Camp、青年海外協力協会、外務省 NGO 研究会

＜敬称略＞



加古川北高校での対面講演

講義・講演会等の参加者数(単位:人)	
対面	1,167
オンライン	1,462
合計	2,629

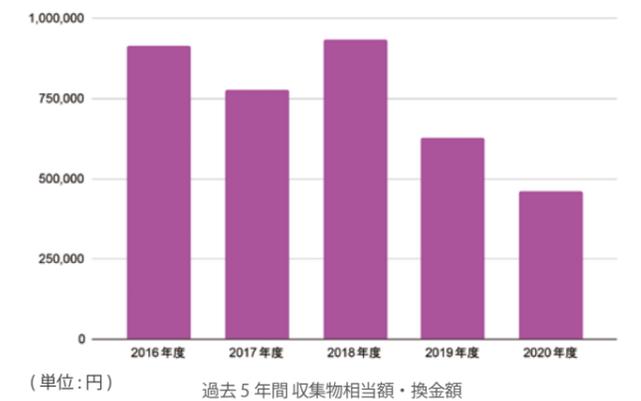
ボランティアとの協働

PHDの活動に、1年を通して51名の方々がボランティアとして関わって下さいました。コロナ禍を受けて、複数人やグループでのボランティア受入れは休止しましたが、個人でお越しの方々に、事務作業（切手・住所シール貼り、書類PDF化など）、会報発送準備などをお手伝いいただきました。

書き損じハガキ等の収集

2020年度はご協力いただいた収集物の換金・相当額は40万円を超えました。

収集物の相当額・換金額集計(単位:円)	
書き損じ及び未使用ハガキ	200,808
未使用切手	111,977
外貨コイン・使用済み切手	89,000
未使用テレホンカード	59,500
合計	461,285



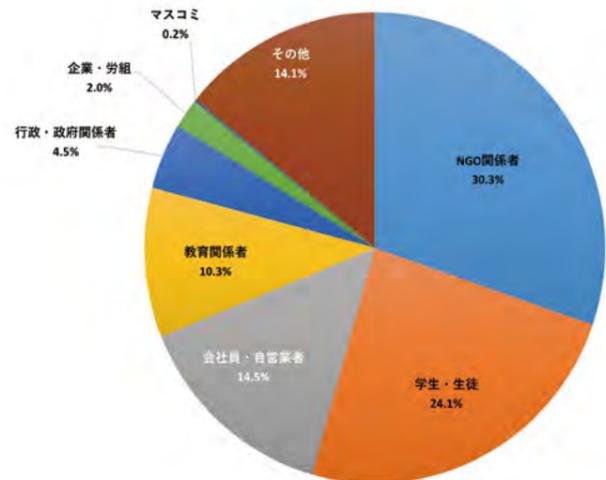
ボランティア参加者数(単位:人)	
事務作業補助・収集物整理等	34
会報発送作業	2
翻訳	8
通訳	7
合計	51

2020年度 外務省委嘱NGO相談員

NGO相談員は、国際協力分野で経験と実績をもつ日本のNGOが外務省の委嘱により「相談員」となり、国際協力活動、NGOの設立、組織の管理・運営など市民やNGO関係者からの質問・照会に応える事業です。同事業を受託し、604件の相談対応を実施しました。また国際協力への理解促進のための出張サービスとして、11件の講演を行いました。相談対応及び出張サービスの実績内訳は以下の通りです。

NGO関係者	180
学生・生徒	143
会社員・自営業者	86
教育関係者	61
行政・政府関係者	27
企業・労組	12
マスコミ	1
その他	84
合計	594(件)

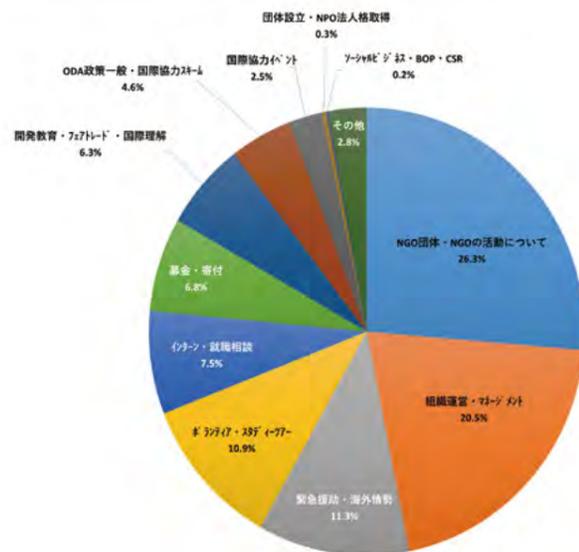
相談者属性別



相談件数内訳

NGO団体・NGOの活動	159
組織運営・マネジメント	124
緊急援助・海外情勢	68
ボランティア・ステイプター	66
インターン・就職相談	45
募金・寄付	41
開発教育・フェアトレード・国際理解	38
ODA政策一般・国際協力システム	28
国際協力イベント	15
団体設立・NPO法人格取得	2
ソーシャルビジネス・BOP・CSR	1
その他	17
合計	604(件)

内容別



都道府県	形式	件数	合計
兵庫	対面	4	8
	オンライン	4	
京都	対面	1	1
奈良	オンライン	1	1
東京	オンライン	1	1
合計		11	

出張の種類	件数
NPO等主催の講演	2
高校の講演	7
その他主催の講演 (JICA関西)	1
大学院の講演	1
合計	11



京都淑徳高等学校にて、ネパール現地の元研修生とオンラインで接続・交流

Facebook リーチ数	計1,036,222 リーチ
---------------	----------------

他団体との協働

他の国際協力・交流団体等との共催行事の実施、運営参加を通して、協働および情報交換を行いました。また、イベント等にも参加し、PHDの活動を幅広く紹介しました。

<共催・参加イベントなど>

JANIC新型コロナウイルス対応情報交換会、多文化共生のための国際理解・開発教育セミナー実行委員会、関西NGO協議会、ひょうごみんなで支え合い基金実行委員会、NGO安全管理イニシアティブJaNISS「COVID-19勉強会」、HYOGON実行委員会、関西NGO協議会総会、JICA関西会議、ソーシャルセクター緊急雇用マッチングイベント、アユス「街の灯」トーク、NPO/NGOの組織基盤強化のためのオンラインセミナー、JANIC・NGO経営者限定 情報・意見交換会、JANIC総会、市民活動センター神戸 総会、HYOGON総会、NGO-JICA協議会、NPO・NGO草莽の集い、One World Festival For Youth、京都SDGsラボ、JICA関西事業マネジメント研修、神戸NGO協議会、HYOGON勉強会、NGO/NPO/社会的企業のパワハラ勉強会、2680地区RYLA広報委員会、セーフトラベルセミナー、HYOGON情報交換会、国際ロータリー第2680地区RYLA学友会総会・つどい、JANIC経営者企画会議、HYOMIC「多文化共生と国際協力」、ハチドリTalks、NGO相談員会議、「多文化共生」を考える研修会、兵庫県国際交流協会30周年記念式典、責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム、HYOMICの集い、JICA多文化共生セミナー、多文化共生×防災JICAワー

ルドカフェ、居住支援セミナー、JOCA・NGOインターンプログラムキャリアセミナー、外国人向け住まいに関する相談会、MIS Tabek奨学金式典、神戸市シルバーカレッジジョイラックデー、Socialship、NGO研究会、公開研究会「定住外国人受入れと社会基盤」、草の根技術協力事業・NGO等提案型プログラム、HYOGON賀詞交歓会、医療通訳×国際協力研修、ロータリー米山記念奨学生説明会、JOCA・NGOインターンプログラム成果報告会、NGO・外務省定期協議会2020年度ODA政策協議会臨時会

<運営>

学校法人 大阪YMCA	評議員
関西学院大学高等部WWL事業	運営指導員
コープともしびボランティア振興財団理事会	理事
神戸NGO協議会	運営委員
神戸市地球市民会議	委員
神戸YMCA 国際委員会	委員
多文化共生のための国際理解教育・開発セミナー	運営委員
ひょうご市民活動協議会(HYOGON)	副代表
兵庫・国際協力同志の会(HYOMIC)	幹事
兵庫ユニセフ協会	評議員
ワンワールドフェスティバルForYouth	監事
NGO神戸外国人救援ネット	運営委員
2680地区RYLA広報委員会	広報委員
JANIC NGO経営者ワーキンググループ	メンバー

啓発事業促進物の販売



神戸市シルバーカレッジのジョイラックデーにて販売

タイ・カレンの手織り布製品等を、雑貨店にて委託販売、シルバーカレッジの学園祭にて販売しました。

<販売・委託・出店先>

山梨県/オリヅチス(委託)
兵庫県/神戸市シルバーカレッジ ジョイラックデー

多文化共生セミナー (2020年8月4日~6日開催)

会員数

会員数は下記の通り、終身維持会員、友の会会員、法人会員を含めて996人となりました。継続したご支援、新たな方からのご支援をいただけるよう、様々な媒体、方法を駆使して広報活動を展開してまいります。

	新規会員数 (目標)	新規会員数 (実績)	2020年度末現在の 会員数
終身維持会員	3人	13人	212人
PHD会員	20人	14人	544人
友の会会員	15人	8人	257人
法人会員			4団体
合計	38	35	996



国際ソロプチミスト神戸様
生活協同組合コープこうべ様



高砂ロータリークラブ様 他1団体（匿名希望）

法人会員の団体様

広報物



会報 144号



会報 145号

メディア活動

PHDの活動について幅広く情報発信し、メディアの特性に合わせた広報・啓発活動を展開しました。

- SNS: Facebook, Instagram, Twitter, Youtube
- 新聞: 朝日新聞 (2020/5/9) 神戸新聞 (2021/3/8)
- 他団体会報等: Dear199号、ふくろう通信 2680地区 RYLA 学友会、終活読本ソナエ 2021 春号
- 他団体HP・メールニュース等: JANIC、JICA Partner、関西NGO協議会、IDJ国際協力ジャーナル、日本財団 Canpan、NGOネットワークジャパン、ボランティアプラットフォーム

<敬称略>

SNSフォロワー数 (単位: アカウント)		2021年3月31日現在
Facebook (いいね)		2,134
Instagram (フォロワー)		1,023
Twitter (フォロワー)		451



終活読本ソナエ



Dear199号

草の根交流 苦渋の延期



2020/5/9 朝日新聞



2021/3/8 神戸新聞



Dear199号

ふくろう通信



会報 146号



会報 146号



会費チラシ



会費チラシ



PHD Movement



事業報告 2019



カレンダー

組織運営

2020年度決算

正味財産増減計算書

自2020年4月1日・至2021年3月31日 (単位:円)			
経常収入		経常支出	
科目	決算額	科目	決算額
基本財産運用収入	4,877,884	研修事業費	17,530,915
特定資産運用収入	94,984	啓発事業費	11,958,206
事業収入	2,913,462	管理費	6,235,223
寄附収入	10,189,157		
会費収入	3,670,000		
助成金収入	4,509,978		
受取利息・配当金	503		
災害救援寄附金収入	120,000		
雑収入	11,614,595		
経常収益計	37,990,563	経常費用計	35,724,344

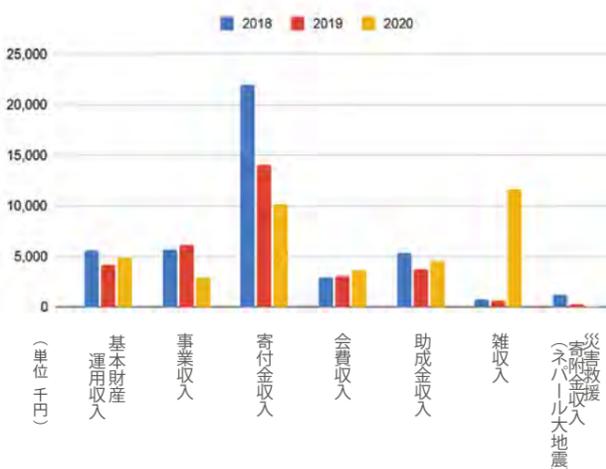
貸借対照表 2021年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	15,091,331	流動負債	3,388,445
固定資産	341,302,316	固定負債	3,669,465
(うち基本財産として 273,245,902)		正味財産	349,335,737
資産合計	356,393,647	負債及び正味財産合計	356,393,647

役員 (2021.6.～)

理事会	
理事長 水野 雄二	(社福)神戸聖隷福祉事業団 理事長
理事 植松 賢治	神戸市東灘区役所 区長
理事 尾上 尚司	(公財)ひょうご子どもと家庭福祉財団 常務理事
理事 門野 隆弘	(株)神戸新聞社 取締役/パートナー本部部長 財務・事業担当
理事 滝澤 功治	神戸海都法律事務所 弁護士
理事 丸尾 研一	(株)エムエスケイ 代表取締役
理事 安平 和彦	はりま法律事務所 弁護士
理事 横川 太	兵庫県産業労働部 国際局長
監事 飯田 健一	飯田会計事務所 公認会計士/税理士
監事 徳山 雅治	生活協同組合コープこうべ 統括部長
顧問	
顧問 橋本 一豊	(株)神戸マツダ 代表取締役会長
評議員会	
井上 真二	(公財)神戸YMCA 総主事
岩坂 二規	関西学院大学大学院 教育学研究科 准教授
寒者 恵	三木市元職員 保健師/保健衛生指導者
寺田 正文	てらだ農園
中尾 秀一	(公財)アジア福祉教育財団 難民事業本部関西支部 支部長代行
納堂 邦弘	ミカタスイッチ(株) 代表取締役/元PHD協会職員
橋本 恵子	(社福)聖和共働福祉会 理事長
秦 紳一郎	国際ロータリー第2680地区 米山記念奨学委員長
宮田 泰子	(公財)神戸YWCA 理事

過去3年間収入比較



運営協力委員

青島 一路	兵庫県連合自治会 事務局長
池田 豊樹	兵庫県小学校長会 会長
伊勢田 佳博	(一社)兵庫県信用組合協会 常務理事兼事務局長
大谷 豊子	国際ソロプチミスト神戸 会長
大家 重明	兵庫県青年洋上大学同窓会 会長
大西 巧	(一社)兵庫県信用金庫協会 常務理事
川本 竜司	JOCV近畿地区兵庫県OB会 理事
神吉 泰彦	高砂にPHD研修生を迎える会
喜多野 章夫	喜多野診療所 院長
北村 悦樹	(社福)兵庫県社会福祉協議会 事務局長
清瀬 欣之	兵庫県立学校長協会 会長
後藤 象三	(一社)兵庫県医師会 事務局長
塩谷 元宏	兵庫県森林組合連合会 専務理事
進藤 昇	(一社)兵庫県私学総連合会 事務局長
高藤 真理	梅花女子大学 准教授
高松 智美	(一社)兵庫県歯科医師会 総務部 総務企画課 課長
檀特 竜王	神戸市市長室国際部 部長
突々 淳	兵庫県漁業協同組合連合会 専務理事
友藤 富士子	兵庫県連合婦人会 会長
小山 優	(株)神戸新聞社 報道部長
猶原 信男	ミャンマー関西 代表
仁井 重雄	兵庫県町村会 事務局長
西村 早百合	GroupTaytay
檜垣 真章	兵庫県中学校長会 会長
平岡 靖敏	神戸商工会議所 理事/産業部長
南 喜樹	(一社)神戸銀行協会 専務理事
明星 頼子	(一社)ガールスカウト兵庫県連盟 書記
本山 秀治	(公財)兵庫県老人クラブ連合会 専務理事兼事務局長
森口 育子	兵庫県立大学 名誉教授
柳川 彰仁	神戸キワニスクラブ 福祉広報委員長
山崎 美和子	(一社)兵庫県薬剤師会 事務局長

助成金・受託事業

2020年度「NGOインターン・プログラム」

外務省主催、公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)運営の「NGOインターン・プログラム」の受け入れ団体に選定されました。本プログラムは、若手人材の育成を通じてNGOによる国際協力を拡充するための制度です。

2020年度「NGO相談員制度」

外務省の委嘱を受け「NGO相談員」として、国際協力活動やNGOに関する市民やNGO関係者からの質問・照会に対応しました。また、国際協力への理解の促進のため、市民団体や教育機関と連携し、対面及びオンラインにて講演を実施しました。

詳細はP.9「2020年度外務省委嘱NGO相談員」をご参照ください。

2020年度「愛のキャンパ 中央助成」日本労働組合総連合会

人道主義の立場から「自由、暴動、公正で平和な世界の実現」のため、NGOなどの事業の支援を目的としている「愛のキャンパ 中央助成」より、コロナ禍におけるネパール・ダリットコミュニティへの食糧配給及び感染症拡大防止のための啓発活動へのご支援をいただきました。詳細はP.5をご参照ください。

神戸国際協力交流センター

「新型コロナウイルス感染症対策外国人留学生等支援事業助成」

神戸国際協力交流センター(KICC)より助成を受け、コロナ禍で生活困窮する神戸市内の留学生を対象に食料及び日用品の配布を行いました。

中央共同募金会 赤い羽根「第2回フードバンク活動等応援助成」

コロナ禍で生活困窮する外国籍の方への支援として、アウトリーチ活動、生活相談、食糧配給を実施しました。また、活動拠点である国際協力・交流シェアハウス「みんなのいえ」の整備も行いました。

JANIC COVID-19緊急助成「庭野平和財団NPFプログラム緊急助成」

JANIC会員団体を対象とする本助成を受け、コロナ禍によって困窮するネパールの被差別カースト「ダリット」のコミュニティにて食糧配給及び感染症拡大防止のための啓発活動を実施しました。詳細はP.3をご参照ください。

私と地域と世界のファンド「みんなおんなじ空の下」

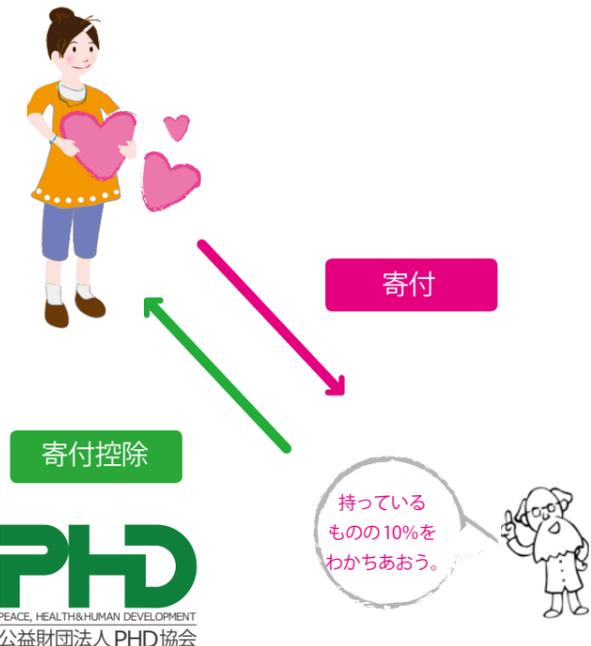
関西NGO協議会、大阪ボランティア協会、泉北のまちと暮らしを考える財団が運営する同基金の助成を受け、ネパールのダリット・コミュニティにて食糧配給とWiFi環境整備のための事業を実施しました。詳細はP.2をご参照ください。

2020年度かめり財団「緊急支援プロジェクト助成」

かめり賞の表彰者を対象に限定公募された本助成を受け、ミャンマーのスラム・バター地区にて食糧支援及び感染症拡大防止のための啓発活動を実施しました。詳細はP.6をご参照ください。

受賞歴

- 1981 岩村先生、第1回ロータリー国際理解と平和賞受賞
- 1982 神戸新聞平和賞
- 1982 兵庫県社会賞
- 1988 国際交流基金、地域交流振興賞
- 1990 神戸国際交流賞
- 1991 毎日国際交流賞
- 1993 岩村先生、マグサイサイ賞受賞
- 1995 第4回環境水俣賞受賞
- 1996 外務大臣賞受賞
- 1997 今井理事長、兵庫県功労者表彰
- 2001 神戸新聞社社会賞
- 2011 井植文化賞
- 2013 かめり賞
- 2014 神戸キワニスクラブ社会貢献賞



PHDへのご寄附及び会費は、免税・減税の対象となります

PHDへのご寄附及び会費は、税額控除もしくは所得控除の適用を受けることができます。

＜例えば20,000円の寄附をして、確定申告をすると＞

◆税額控除の場合

(20,000円－2,000円)×40%＝7,200円*1が還付されます。
*1 所得税額の25%に相当する金額を限度とします。

◆所得控除の場合

20,000円*2－2,000円＝18,000円が所得金額から引かれます。
*2 所得金額の40%を限度とします。

詳しくは国税庁のホームページをご覧ください。

PHD 会員制度のご案内

PHD運動は会員の皆様によって支えられ、すすめられています。継続したご支援をよろしく願っています。

PHD終身維持会員	1口	10万円 (任意の口数)
PHD会員	年額1口	5千円 (任意の口数)
PHD友の会会員	年額	千円以上 (任意の額)
PHD法人会員	年額1口	2万円、3万円、5万円、10万円 (上記金額より任意の口数)

会員の皆さまには、会報「PHD LETTER」、事業報告書をお届けします。

会費のお振込みはこちらにお願いいたします。

口座名：公益財団法人PHD協会

◆ゆうちょ銀行 口座番号：01110-6-29688

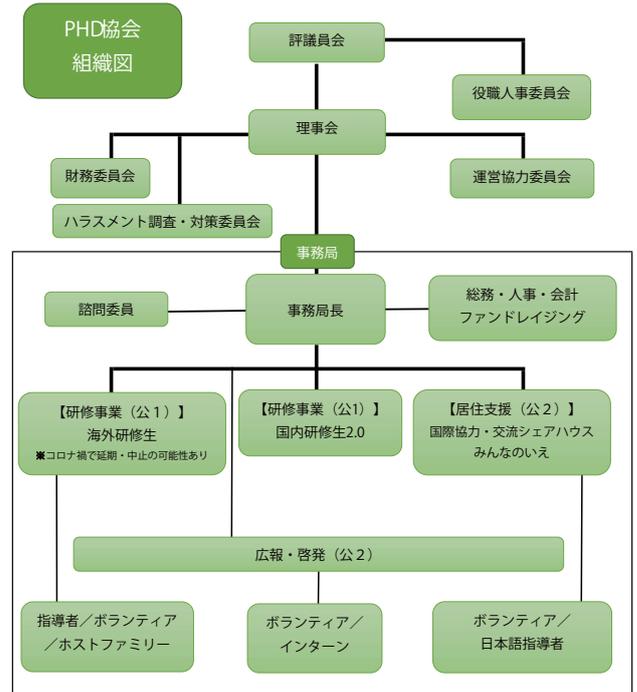
◆三井住友銀行 神戸営業部 (500) 普通口座：3210568

◆楽天銀行 第四営業支店 (254) 普通口座：7022842

事務局・スタッフ (2021.4. ~)

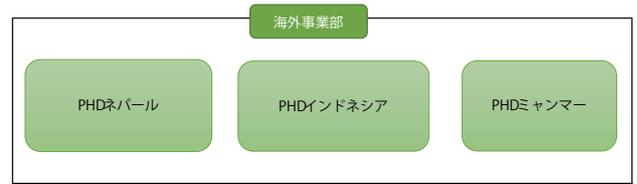
事務局

- | | | | |
|---|--|---|-------------------------|
|  | 坂西 卓郎
事務局長 |  | 中村 朱里
総務・ファンドレイジング担当 |
|  | 山本 健太郎
研修担当 |  | 古寺 瑞代
財務担当 |
|  | 中島 麻
広報・啓発担当 |  | 芳田 弓生希
広報・啓発副担当 |
|  | 濱 宏子
人事・米山奨学生担当
国際協力・交流シェアハウス「みんなのいえ」施設長 | | |



ミャンマー現地スタッフ

- | | | | |
|---|------------------------------|--|------------------------|
|  | モーママ
2013年度第31期生 |  | サンティダエー
2015年度第33期生 |
|  | ティダチョー (マーチョ)
2016年度第34期生 | | |



ネパール現地スタッフ

- | | | | |
|---|-------------------------|---|--------------------------|
|  | ランマヤ・タマン
2012年度第30期生 |  | ムク・マヤ・タマン
2014年度第32期生 |
|---|-------------------------|---|--------------------------|

インドネシア現地スタッフ

- | | | | |
|---|-----------------------------|---|--------------------------|
|  | ダスウィル
1999年度第17期生 |  | アルウィ ファドリ
2001年度第19期生 |
|  | ダルミアティス (ミミ)
2002年度第20期生 |  | アフリタ
2004年度第22期生 |
|  | マスラル アリゾン
2005年度第23期生 |  | ダリスマン
2013年度第31期生 |



〒653-0836
神戸市長田区神楽町3丁目7-4
TEL 078-414-7750
FAX 078-414-7611



2021.7.2000